



2019年5月29日

各 位

上場会社名 LCホールディングス株式会社
 代表者 代表取締役社長 金子 修
 (JASDAQ・コード 8938)
 問合せ先 取締役管理部部長 福島 満則
 (TEL 03-4451-8101)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社はこの度、2020年3月期から2022年3月期までの3か年度における中期経営計画を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 今後3か年の中期経営計画

(1) 前事業年度（2019年3月期）の総括

前事業年度（2018年4月1日～2019年3月31日）におけるわが国経済は、緩やかに景気の回復が持続しております。輸出はおおむね横ばいとなっているものの、企業収益が過去最高を記録する中で設備投資が増加するとともに、雇用・所得環境の改善により個人消費の持ち直しが続くなど、経済の好循環は着実に回りつつあります。失業率は引き続き低水準で推移し、個人消費にも底堅さが見られましたが、相次いだ自然災害により、個人消費や輸出を中心に経済は一時的に押し下げられました。米中貿易摩擦が長期化する中、国内では人手不足が継続しており、景気の先行きは依然として予断を許さない状況が続いています。

このような環境の中、当社グループは2018年6月下旬より新たな経営体制が発足し、前事業年度は、新たな方針の下で策定した中期経営計画（3か年）の初年度となりました。

前事業年度の業績予想と結果及び前々年度との比較は次の通りです。

	売上高	営業利益	経常利益
2019年3月期 (2018年6月28日公表時予想)	15,000	1,700	1,200
2019年3月期 (実績)	14,829	1,361	1,502
2018年3月期 (実績)	13,774	1,504	1,049

なお、親会社株主に帰属する当期純利益は990百万円（前々事業年度263百万円）となりました。

連結売上高、連結営業利益及び連結経常利益は、ノンコア（非主要）事業に係る不動産物件の売却という方針に基づき、連結SPC保有物件（宿泊施設）の売却及び当社及び連結子会社による保有物件（いずれも物流施設）の売却が寄与し、ほぼ計画通りの実績を達成いたしました。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益については、当社が保有していた(株)ロジコムの子株

売却による利益が貢献し、前々事業年度と比較して高い利益を達成することができました。

また、前事業年度よりコア（主要）事業となった病院関連事業に関する計画と実績は次の通りです。いずれの指標も未達成となりました。

	事業継承する 医療法人数	オフバランス する不動産額	病床数 (増加分)
2019年3月期 (2018年6月28日公 表時予想)	12	300億円	1,645床
2019年3月期 (実績)	7 (うち1は個人)	—	921床

なお、当社グループにおいて、前事業年度中の主な活動は次に記載する通りです。

- (1) 2018年6月 新代表取締役社長就任、病院関連事業をコア事業とする旨を公表
『Simple & Concentrate』をグループの新スローガンとして標榜
- (2) 2018年8月 連結子会社グローム・コネクト株式会社を設立
- (3) 2018年9月 連結子会社グローム・プラス株式会社を設立
- (4) 2018年9月 連結SPCによる保有不動産（2物件）の売却
- (5) 2018年12月 連結子会社グローム・ステイ株式会社を設立
- (6) 2018年12月 連結子会社株式会社ロジコムの子会社を売却
- (7) 2019年1月 当社保有の倉庫を売却

新設のグローム・コネクト株式会社（以下、GMC）は、2018年8月に設立され、主に医療従事者の有料職業紹介事業、健診サービス・人間ドック事業の企画・運営、また海外からの需要を取り入れるべく医療ツーリズム事業の企画・運営を行ってまいります。

新設のグローム・プラス株式会社（以下、GLP）は、2018年9月に設立され、主に病院不動産の修繕計画の立案・実施、再開発など病院不動産の価値向上を目指すべく、プロパティマネジメント事業の企画・運営を行ってまいります。

新設のグローム・ステイ株式会社（以下、GMS）は、2018年12月に設立され、当社グループで運営支援しております医療法人の在宅医療部門の収益性を強化すべく、主に訪問看護ステーション事業の企画・運営を行ってまいります。

2019年5月現在、大阪府古市で1ステーションを開設しております。

(2) 課題に対する事業の進捗状況と今後の見通し等について

当社グループは、前事業年度から『Simple & Concentrate』をグループのスローガンとして次の課題に取り組んでおります。また、その進捗状況と今後の方向性について述べておきます。

病院関連事業につきましては、病院施設及びその関連施設に関して、2019年3月末現在で16医療法人、2,276床の事業継承を実施いたしました。今後は新たな事業継承を実現していくことは勿論のこと、新設会社のGMC、GLP及びGMSと協力し、事業継承後の医療法人に対する運営支援や周辺業務への様々なサポートにも一層注力し、医療法人の収益力向上に寄与してまいります。

本事業年度（2020年3月期）には、12医療法人の事業継承、300億円の病院不動産のオフ

バランス、2,000床の増加を目標としております。

当社グループが保有する物流・商業施設不動産の物件売却につきましては、既に本事業年度には、米国子会社が保有していた11物件中7物件は既に売却が完了しており、残存する物件も本事業年度中に売却される予定です。また、当社が保有する倉庫は6月下旬に売却が予定されております。本事業年度中にほぼ全ての物流・商業施設不動産の売却を完了する予定です。

(3) 中期経営計画の概要

2020年3月期からの中期経営計画を策定するにあたり、2018年6月28日に公表した中期経営計画を安易に変更せず（但し本事業年度を除く）、かつ、次事業年度以降の数値の見直しは行わず、2022年3月期へのローリングは行いません。

(4) 当該中期経営計画の背景予想

2020年3月期以降の3か年につきましては、引き続き現政権による経済政策（アベノミクス）が、わが国の経済活動を活発化させることができるか、が大きなポイントとなるだろうと考えております。特に、消費税率10%への引き上げ及び東京オリンピックの開催が経済にどのような影響を与えるか、が重要だと考えます。

病院関連事業としては、社会的な意義がある一方で、様々な解決すべき問題を抱えております。特に、事業継承及び社会的ニーズを背景とした「地域包括ケアシステム」の構築については、重大かつ差し迫った課題として挙げられております。また、建物の老朽化、適正な設備投資、IT化への速やかかつ適切な対応が必要とされております。

当社グループは、病院関連事業については、医療法人によるオフバランスや病院周辺事業及び病院建物の適正な管理など、長年のノウハウを有し、社会的な役割を果たせると考えております。今後病院関連事業については、成長が見込める有望な分野であり、当社グループとしては、引き続き主たる事業として発展させたいと考えております。

2. 今期の業績予想及び今後の業績目標

前事業年度の総括、本事業年度以降の環境予想を踏まえ、今後3か年の連結業績に関し、次の通り予想及び目標を検討いたしました。検討した前提条件は以下の通りです。

2020年3月期（予想）

病院関連事業における事業継承のニーズは引き続き高水準にあるため、継続的な実現を見込んでおります。

本事業年度は、新たに12医療法人の事業継承を予想しており、本事業年度末には累計で28医療法人の事業継承を完了すると予想しております。また、病院アセットのオフバランス化につきましては、本事業年度中に実現できる見通しを持って準備しております。

当社グループが保有する物流・商業不動産の売却につきましては、本事業年度中に全物件の売却を完了させる予定です。

その結果、本事業年度の業績予想は、売上高 8,700 百万円、営業利益 2,400 百万円、経常利益 1,900 百万円、親会社に帰属する当期純利益 900 百万円としております。

2021年3月期以降の業績目標

2021年3月期以降の業績目標は、当社グループの収益構造の変化により、その前事業年度まで大きな比率を占めていた不動産賃貸収入や物件売却による売上高の比率が低くなり、その一方で、病院関連事業による利益率の高いフィー収入の比率が高まる結果、2020年3月期は減収増益となると予想しております。その次年度以降では、病院関連事業による継続的なフィー収入が拡大し、売上高、利益ともに増収増益基調になると予想しております。

なお、2020年3月期から2021年3月期までの病院関連事業における新規事業継承の予想及び目標を次の通り設定しております。

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	2021年3月期 (目標)
新規事業継承 医療法人数	7	12	12
累計	16	28	40

前事業年度の実績と今期及び来期の業績予想と目標は次の通りです。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益
2019年3月期 (実績)	14,829	1,361	1,502
2020年3月期 (予想)	8,700	2,400	1,900
2021年3月期 (目標)	11,000	2,500	2,000

以上